

新 生

令和六年六月 十日印刷
令和六年六月二十日発行

新生第七十六巻 第二号



東北新生園入所者自治会

新 生

令和六年六月 十日印刷
令和六年六月二十日発行

東北新生園の概況

所 在 地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土 地 面 積	351,291㎡
建物延面積	22,740㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	185床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男7名 女19名 計26名
職員定員数	130名（令和6年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



第七十六巻第二号

3月27日完成、引き渡し



左から会計班長、福祉室長、園長、
会長、縦看護師長、事務長



三重の塔完成、見学



【謝寄贈凶書欄】

令和六年 一月～三月

令和六年 一月～三月（敬称略）

正月行事

二十九日 転勤・退職者離任式

多磨	菊池野	楓	愛生	青松	始良野
東京都	熊本県	岡山県	岡山県	香川県	鹿児島県
多磨全生園	菊池恵楓園	邑久光明園	長島愛生園	大島青松園	星塚敬愛園

令和6年6月10日 印 刷
令和6年6月20日 発 行

東北新生園楓会(自治会)
楓会文化部
川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
發行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十六卷第二号……………目次

表紙…「鎮魂」……………撮影 医療社会事業専門職 瀬川 将 広

三重の塔（慰霊塔）の建設について……………施設管理係…原 新…（2）
八十五歳でアフリカ最高峰のキリマンジャロ登頂「ハンセン病を忘れないで」
……WHOハンセン病制圧大使・日本財団会長・笹川 陽 平…（5）
随筆「ふるさと変貌」……………斎 藤 照 雄…（16）

|| 新 生 文 芸 ||

詩……………選 者…佐々木 一…（19）
短 歌……………選 者…皆 川 二 郎…（21）
俳 句……………選 者…小 松 温 美…（23）
川 柳……………選 者…栗 石 隆 子…（25）
転入のご挨拶……………総看護師長…石 井 智 子…（28）
また、よろしくお願いします……………会計班長…狩 野 智 行…（30）
ご挨拶……………補給係…高 橋 太 陽…（33）
なんだってできる、なんとかなる……………芽 生…（35）
四コマ漫画「謝罪」「腹痛」……………太 田 凜…（38）
園内日誌・謝寄贈図書

三重の塔(慰霊塔)の建設について

施設管理係 原

新

令和六年三月二十二日(金)、当園の社会交流公園における三重の塔(慰霊塔)が完成いたしました。着工令和五年三月一日(水)、高さ約十三メートル木造、宮大工が造った美しい建造物となりました。現在夜にはライトアップも行っております。一時は計画の遅れで工期に合わない恐れもあったり、完成間際で石材業者が倒産して石の納品が出来ないのではないかとの不安もありましたが、多くの関係者の方々に支えられてなんとか工期内に完成となりました。これもひとえに入所者の方々、職員の方々、各業者の方々のご尽力の賜物と考えております。

そこで今回は慰霊塔構想から建築に至るまでの経緯や目的について簡単に振り返ってみます。

東北新生園将来構想ゾーニング

- ①「居住者」ゾーン
安心とやすらぎの生活
- ②「医療・サービス部門」ゾーン
老人デイサービスセンター・身体障害者デイサービスセンター・知的障害者デイサービスセンター・在宅介護支援センター・障害者生活支援センター
- ③「イベント」ゾーン
パークゴルフ場(9ホール・2コース)
野球グラウンド
- ④「自然公園」ゾーン
子供から老人まで自然とふれあい健康的で全ての世代が楽しめる広場
- ⑤「生産緑地」ゾーン
水・緑・土とのふれあいと喜びを味わう

東北新生園将来構想進捗状況について

当園の敷地面積は、三十五ヘクタールあり、この敷地内に「居住者」「医療・サービス部門」「イベント」「自然公園」「生産緑地」の5つのゾーンを計画し、特に「居住者」を最優先と位置付け将来構想を推進してきました。

令和二年三月に総合診療棟が完成し移転が終了しました。令和二年度、令和三年度で総合診療棟周りの外構を整備し「医療・サービス部門」「居住者」ゾーンの整備は一区切りとなりました。

「自然公園」ゾーンについては、桜の植樹「一〇〇〇本」を計画、植樹が出来ました。「イベント」ゾーンについては、グラウンド、パークゴルフ場を整備しました。

現状分析・将来構想の課題

〈社会情勢の変化〉・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)において、社会的距離の

確保や「三密」の回避等基本生活様式が変化してきています。コロナ禍において感染者や医療従事者への偏見、誤った知識や見解による誹謗中傷・差別が問題になっています。患者さんや関係者に対する差別は決してあつてはならないことであり、ハンセンの歴史とともに社会の創造に寄与していきたいと考えます。

〈歴史・資料〉・「しんせい資料館」で当園の歴史、ハンセン病隔離政策の歴史・実態を普及啓発していますが、現資料館は手狭になつてきています。人と人との社会的距離が確保できる広い場所が必要です。過去の過ちを繰り返さないためにも、今の社会に生きる人、これからの社会に生きる子供たちに、歴史を振り返り、過ったハンセン病対策、様々な偏見や差別を伝えていく場所と建物の整備を必要とします。

〈慰霊〉・現在の霊安堂脇に、物故者の慰霊を目的に慰霊塔の建設を計画していましたが、場所が高台にあり傾斜地で狹隘なため高齢となった入所者のお参りにそぐわない場所となっています。平坦な広い場所での建設が望まれます。

〈ゾーンング〉・物故者の名簿を慰霊塔に納め供養するとともに、上記歴史・資料を普及啓発する新たなゾーンを整備する必要があります。新たに「歴史・慰霊・資料」ゾーンを新設し、新生園の象徴となる慰霊塔を人の集まりやすい平坦な場所に建設します。

慰霊塔は物故者の慰霊とハンセン病の歴史を学ぶ場所であるとともに、病気による偏見や差別をなくすための象徴でもあり中核となります。

〈目的と概要〉・慰霊塔の建設 慰霊塔は、各宗教団体が納得する三重の塔とします。三重の塔（物故者の慰霊）を中核にハンセン病の歴史、実態を後世に伝えます。三重の塔を

追悼の場とし、ハンセン病に対する差別・偏見の解消を目的とした啓発活動、ハンセン病歴史に関する普及啓発を実施し、元ハンセン病患者の名誉回復を図ります。

以上が当初の建築に至るまでの経緯、目的のご説明となります。我々はこの大切な慰霊塔を未来に向かって残していく義務があると考えています。



(イラスト：伊藤えりか)

八十五歳でアフリカ最高峰のキリマンジャロ登頂「ハンセン病を忘れないで」

WHOハンセン病制圧大使・日本財団会長 笹川陽平

「途中下山も検討」

傾斜の急な砂礫地帯に差し掛かった標高五四〇〇メートル付近。八十五歳の私は足をもたつかせる頻度が増え、ペースが落ちてきた。眠気が出てきたこともあり、立ち止まってストックに体重を委ねて休む回数も増えた。この様子を見ていた同行の池田知也医師から、足のもたつきや眠気がこれ以上ある場合は下山を検討します、と伝えられる。眠気は高山病の一つで、酸素濃度が低い高所で脳への酸素が不足して起こることがあり、身体に危険が伴うとのこと。「ここで降りるのは

残念ですねえ」と答えた記憶がある。今思うと、この「下山」という言葉に、私は奮い立ったのだと思う。あと数百メートルのところで来て下りるのは、同行してくれたメンバーに申し訳ない。何よりも、世界中でハンセン病に苦しむ人々の顔が浮かんできて、私ができることはほんのわずかとわかつてはいるが、登頂して世界へアピールしたい、という思いで最後の傾斜を一步一步登り続けた。この最後の数百メートルがいつまで続くのかと思った時に、後ろから聞こえた池田医師の「会長、行ける！」の声が最後のひと押しとなって、私を頂上へと押し上げてくれた。

タンザニア時間の二〇二四年二月十二日朝五時半、登山を開始して六日目、ついに、五六八五メートルの登頂ポイントまで辿り着いた。ここで、念願であった「ハンセン病を忘れないで」(“Don't Forget Leprosy”)のバナーを頂上で掲げることができ、万感の思いであった。



「ハンセン病を忘れないで」のバナーを掲げる筆者



キリマンジャロの頂上からの日の出 (撮影 池田医師)

「登山決意から一年半」

今回のキリマンジャロ登頂を目指すことを決めたのは約一年半前である。きっかけはネパールの登山家シェルパ氏が二〇二二年五月にエベレスト山頂で「ハンセン病を忘れないで」のバナーを掲げ、ハンセン病の啓発活動の一役を担ってくれたことである。同氏は世界中にある八〇〇〇メートル以上の十四峰に成功した最年少登頂記録保持者でもある。私は、このことに感動し自分でも何かできないかと考え、同年八月に、日本一の山、富士山の頂上で「ハンセン病を忘れないで」のバナーを掲げた。

そして次なる目標を、世界七大陸最高峰の一つでもあるアフリカのタンザニアにあるキリマンジャロの頂上で、「ハンセン病を忘れないで」のバナーを掲げて世界中にメッセージを広めることにしたのである。アフリカ最

高峰のキリマンジャロを選んだのは、アフリカには未だハンセン病の調査が行き届いていないエリアが多く存在するというのも理由の一つだ。私が世界中でハンセン病制圧活動に取り組み始めて約五十年経つが、今もなおハンセン病患者やその家族への偏見や差別が根深く、これらの問題解決は急務である。本来



エベレストの頂上でバナーを掲げるシェルパ氏 (2022年5月)

は、この問題がもつと国際的に人権問題としてアピールされなければならぬはずだが私の力不足もあり、なかなかこの活動を世界的に盛り上げることが出来ていない。今回キリマンジャロの山頂でバナーを掲げたことは、活動に拍車をかけるためのキックオフと位置付けている。私は生ある限り、世界のハンセン病制圧に命を捧げる覚悟でいる。



富士山の頂上でバナーを掲げる筆者

(2022年8月)

「登頂できるのは半分くらいの確率」

今回の登山は十人でチームを結成した。そのうち、二人が医師という大変贅沢なメンバー構成である。二人の医師のうちの一人は、今回の登山に同行してくれる医師を私のブログで募集したところ、手を挙げてくれたのが冒頭でも紹介した池田医師である。池田医師は日本での医療活動と国境なき医師団での活動を両立させる外科医で、外科医として働く傍ら七大陸最高峰すべてを制覇し、さらにプロボクサーでもある。今回の登頂が成功したのは、彼の豊富な経験に基づいた適切なアドバイスがあったからと言っても過言ではない。

さて、登頂記録をもう少し詳しく記しておきたい。二〇二四年二月五日に、私と日本財団職員二人の計三人はジュネーブでの用務を終えてからカタルのドーハ空港で日本から

来る他のメンバーと合流。ドーハからは深夜便で移動し、六日の朝にタンザニアの北東部に位置するキリマンジャロ空港に到着した。実はその二日前からひどい嘔吐と下痢の症状がでていて、到着した時の体調は絶不調であった。同行の職員にも同じ症状を訴えるものがいたため、おそらく食あたりではないかと推測している。もはや登山は断念するべきかと思ったが、なんとか現地入りすることができた。翌日の登山開始の朝にはほんの少し食事が取れるほどには回復したが、体力に不安を感じながらの登山開始であった。なお、キリマンジャロの登山ルートは七つ以上あると言われている、我々が選んだマランゲ・

ルートは登頂率が50%程度とのこと。現地ですそれを聞いた私は途端に弱気になったが、ここまで来たからには行くしかないと思腹を括り、六泊七日の登山をスタートさせた。

〈一日目〉スタート地点は標高一八六〇メートル



初日は熱帯雨林地帯を登る

ル。この地点から二七二〇メートルまでの熱帯雨林地帯約八kmを約六時間かけて登った。気温は25℃程度。カメレオンに出会えるかもしれないと聞いていたが、我々が出会ったのは、小さなトカゲだった。

キリマンジャロの魅力の一つは、熱帯雨林地帯から始まり、草木のない広大な大地を通り、標高が更に上がるにつれて景色は険しい岩場と変わり、山頂付近では氷河が残っている



道のりが陰しくなってきた

分かれて宿泊。ベッドにはマットレスと枕までついており、思いのほか快適であった。
 〈二日目〉更に一〇〇〇メートル上の標高三七二〇メートルまでの道のり約十一キロメートルを登っていく。富士山とほぼ同じ高さまで来た。岩が剥き出しになり、降雨にも見舞われ、歩きにくさが増してきた。太陽が出ている時と、陰っている時の気温差が10℃くら



一人50kg近くの荷物を運ぶポーターたち

るといふ、雄大で豊かな大自然が丸ごと見られるというところにあるという。
 ちなみに、登山には必ずガイドやポーターたちの同行が必要となる。彼らの協力なくしてはキリマンジャロ登頂は到底成し得ないことなのである。チーフガイド一人とサブガイド三人が我々のペースに合わせて先導してく



山小屋の2段ベッド。寝袋に入って休む

れる。また、コックまでが同行し、我々の食事のケアも完璧にしてくれるのである。何より我々の荷物とスタッフの分を含めた食糧一週間分を持ち運ぶポーターたちには頭が下がる思いであった。
 また、宿泊用には山小屋が整備されており、我々は二段ベッド二つの四人部屋などに

いはあるが、気温は平均すると15℃程度だろうか。風が吹き、雨が降れば更に寒くなる。
 この日は休憩も含めて十時間登り続けた。
 〈三日目〉標高三七二〇メートルのキャンプ地から四〇〇〇メートル程度まで登って、三七二〇メートルのキャンプ地まで下りる、という高地順応をする日である。低酸素の環境にも少しずつ体が慣れ、体を休める時間にもなった。

〈四日目〉更に一〇〇〇メートル高い、標高四七二〇メートルを目指す。約10kmを約六時間かけて登る。このあたりは森林限界で、周りには木がほとんどない。そして遠くにキリマンジャロの頂上が見えてきた。

ここまでの間、幸いにも高山病の症状は全くと言っていいほどにない。ただし、高山病予防薬に利尿作用があるため、夜中に五回、気温0℃の中でトイレに行かなくてはならないのが、多少の試練ではあった。

〈五日目〉三日目と同じく、日中は高地順応を行った。四七二〇メートルのキャンプ地から五〇〇〇メートル付近まで登り、また元の四七二〇メートルまで下りる。この日の深夜に山頂アタックを開始するため、十六時頃に早めの夕食をとり、そのあと二十二時まで仮眠。そして二十三時半、山頂へのアタックを開始した。



森林限界の景色の中を登り続ける。遠くにキリマンジャロの頂上が見え始める

〈六日目〉深夜から早朝にかけて、標高四七二〇メートルから頂上まで約三・五キロメートルの道のりを約六時間かけて登っていった。気温は0℃からマイナス5℃程度だろうか。登山を開始して六日目。これまでの疲労がないといえは嘘にはなる。登山計画を立てている段階では正直なところ、登頂できる確率は半分くらいかと考えていたが、毎日登り続け



防寒服を着て山頂アタック開始

るにつれ、ガイドたちが何度となく連呼してくれていた「ひとつのチーム、ひとつの夢！(One Team One Dream)」が実現できるかもしれない、という想いが強くなってきた。アタック後半は体力との闘いではあったが、アタックに挑戦したメンバー全員と一緒に登頂でき、喜びを分かち合えた時には感無量であった。山頂ではガイドも一緒に歌を歌って喜んでくれた。後で聞くと、我々が依頼したツアー会社で登頂に成功した八十五歳はこれまでの最高年齢だとのこと。彼らの献身的なサポートと、同行してくれたメンバーには感謝の思いしかない。

また、山頂アタック当日の天候については、おそらく風はそんなには強くなく、雪も降らないだろうと事前にガイドからは聞いていたが、二日前には山頂付近で雪が多く降り、靴につけるアイゼンがないと登れないという情報も入ってきていた。そのため、人数分のア



今回の登頂に携わってくれたメンバーやガイドたちと

イゼンを準備していた。しかし、この日は風がほとんどなく、雪に降られることもなかった。天候まで見方につけることができ、本当に恵まれた山頂アタックだった。

「大した野郎ですよ」

（池田知也医師からのコメント）

僕が同行する価値は下山の判断をすること、安全に無事に帰ることを第一に考えていました。なので、山頂アタックの五四〇メートル付近で少し足下がふらつき、眠気を訴えてきた時に下山を検討することを告げました。ただ、会長は高地には強いこともわかっていたし、目の焦点もしっかりしていたので、とにかく一歩一歩登る会長を後ろから見守ることにしました。八十五歳で登頂を目指す聞いて、本気でやってやろうとする気

概がすごいです。登頂した時には、敬語を忘れさせていただきますと前置きして、「大した野郎ですよ」と思わず会長と握手をしました。それから、笹川会長からは、ネガティブ



今回の登頂には池田医師（右）の存在は欠かせなかった

な発言がないですし、泣き言を言いません。なので、登頂を疑わずにずっと行けると思っていたのか、それともどこかで挫折しそうになっていたのが、わかりません。本音を聞いてみたいですね。

「グローバルアピール」二〇二四

最後に、タンザニアのキリマンジャロ入りに先立つ二〇二四年一月三十一日に、スイスのWHO本部でハンセン病の制圧と差別的撤廃を訴える十九回目のグローバル・アピールを発表するとともに、同じ危機感を持つテドロス・アダノムWHO事務局長と共同宣言を発表したことを付け加えておきたい。二〇〇六年にスタートしたグローバル・アピールは一月の最終日曜日の世界ハンセン病の日前後に、問題提起とアクションの呼びかけからなる宣言文を発信している。毎年、新たな影響力のある個人や団体をパートナーとして、宣言文に署名し共同発信者となってもらうことで連携を促進し、ハンセン病問題の認知度を高めることを目的としている。



テドロスWHO事務局長と共同宣言を発表

（写真：富永夏子）

「ふるさと変貌」

斎藤 照雄

築館インターから那須を通り、花室神社。そこには杉の太木が数十本伐採されていた。大きな社もコンパクトなルーフ。

戦時中シンガポール陥落の折、提灯行列をした。それが終わってから学校で紅白饅頭をもらった記憶がある。

花室神社を南下して、右手に雑木林の後にお茶工場。その前には藤屋雑貨店の二階がコンパクトなルーフになっており、左手の二階造りの文房具売り、コンパクトなピンクの平屋建て。その向こうに二階造りの大きな学校

がコンパクトなルーフに。今は二十五人。以前は本校で分校を二つも抱えていた。当時は多い時で八百人も生徒がいたのだ。家に帰ると「パパ、じいちゃん、ばあちゃん、お帰り。おじちゃん、いらっしやい。」と子供らがお母さんと出迎えた。

その子供らは「パパ、サッカーやろう」と。「待て、お兄ちゃんが風呂にはいれるか聞いてから。入れるとなったら遊ぼうな。おじちゃんじゃなく、お兄ちゃんだよ」とパパが教えた。

風呂から上がって行ってみると三人でサッカーボールを楽しそうに蹴っていた。

お母さんが「パパ、タクヤ、ユウキ、風呂にお入り。お兄ちゃんらが終わったようだから。ママはその後から入るから。」と言った。皆が風呂から上がると楽しい夕餉の時間。

パパと子供らはジュース。あとの人たちは

ビールで乾杯。

私のふるさとへの凱旋を祝してくれた。

そこで気が付いたのが、「パパ、ママ」と呼んだらして。

ふるさととは変貌していた。



令和6年度 津軽三味線

『三代目 井上成美 & 成美会』 公演会



津軽じょんから節の合奏から始まり、外山節・ドンパン節・花笠音頭は、唄い手さんと一緒に入所者の皆さんも唄いました。



独奏コーナーでは、津軽三下り・津軽じょんから節を演奏。アンコールを受け、熱のこもった演奏



満開の桜の木の下で記念撮影



会長より花束の贈呈

新生
文芸

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《無菌証に感謝している》

斎藤 照雄

私はかつて家族らに
無菌証を見せたくて
友の手を借り帰郷したが
途中何の咎めもなく
無菌証を見せることもなく
懐に忍ばせたままだった

今は両目両足を失ってしまい
どこにも出られない体になってしまい
無菌証は必要なくなってしまう
しかしどこへ行くのにも
力になってくれた無菌証
貴重品と一緒に保存し
事あるごとに
無菌証に感謝している

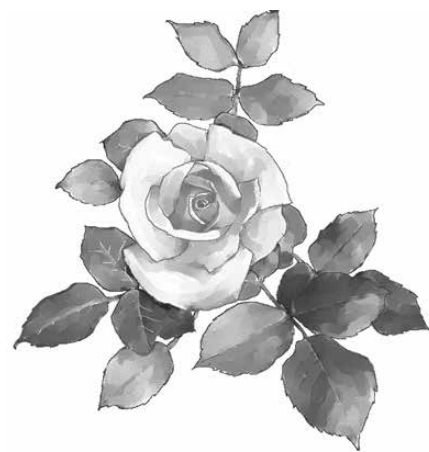
【選評】

《無菌証に感謝している》

斎藤 照雄

今回、無菌証という証明書があったことを知り、とても驚きました。

この作品の根底には深い痛みがあると思います
が、作者の持ち味であるさりげない感覚や人生観
がそれを痛みと感ぜさせません。心豊かな作品と
なっています。



短歌

皆川 二郎 選

◇ 入 選 ◇

田植え時期家族総出の一仕事「たばこ
にするよ」祖母の呼び声 芽生

【選評】

田植えの時期は、まさに猫の手
も借りたいくらいの忙しさであり、
家族総出で田植えをしている情景
と、途中の区切りの良いところで
一休みをする「たばこにするよ」と
祖母の声がかかり、いっぷくの
休みをする姿が見えるようである。

歌多 眠寝子
のぞき込む水たまりには花の雨曇天注ぐ後
ろには虹

【選評】

水たまりを覗き込むと、雨のよ
うに花が散り、曇り空に変わり、
その後には虹がかかってくる。と
いう自然の移り変わる様子をよく
観察し、詩的に端的に表現してい
る。人間は、自然と共に生きてい
るのであるから、その変化を受け
止めながら生活していきたいもの
である。

芽生
雷が天を切り裂き暴れては咆哮上げて
とどろき渡る

【選評】

雷が天を切り裂くように暴れては、咆哮（ほうこう）「雷が獣のうに吠え叫ぶこと」を上げてとどろき渡っていく。雷の瞬間の恐ろしさを具体的に表現し、実感があがり雷鳴が聞こえるようである。

歌多 眠寝子

うきうきと外に出でゆく愛猫の寒さのあまりすぐ舞い戻る
聞こえる端唄小唄が流るるは公民館の花の咲くころ

◇佳作◇

芽生

水田に映る栗駒雪の山田植え日和よ青空澄みて
嵩を増し雪解けの水流れ込む成瀬の川に鮭の遡上す
忍耐を試されるとき旦那様育てるコツは褒めておだてる
腰曲げて耕運機追ひ苗直す慣れぬ長靴足のもつれて



俳句

小松温美選

◇入選◇

斎藤照雄

ふるさとの野山今頃緑かな

【選評】

作者の眼裏には、なつかしい故郷の緑の野山が浮かんでいる。読み手も各々の故郷の緑の野山を思い出し懐かしむのだ。余情のある句となった。

紫陽花の彩移りゆく雨受けて

芽生

【選評】

紫陽花は雨に似合う。作者はいつもその様子を気にかけていたのだろう。紫陽花の彩のわずかな変化に着目する感性が実に俳句的である。

父立てる帰郷の俺に一番茶

斎藤照雄

【選評】

久しぶりの帰郷の際に父が手ずから茶を点ててくれた。春になって最初に摘み取った茶である。気持ち嬉しく心も暖まっていくのだ。

◇ 佳 作 ◇

斎藤 照雄

ふるさとの軒端千し柿ぶらぶらと
ふるさとの石垣いちご食べたいな
ふるさとの緑の風に吹かれない
ハ氏癒えて紅椿待つふるさとへ

芽 生

凜として野に咲き誇る百合姿
花の雨に水面さざめく樂しげに
帰省待ち田舎育ちは街へ行く
手を繋ぎつつじの丘を歩きゆく

歌 多 眠寝子

渡し場の水面に降るは花の雨
可惜夜の小風に揺れる桜かな



《地位》 長沼 蓮花

春服がいまかいまかと出番待ち

【選 評】

蓮花さん、春を待つ女性らしい作品です。中七の措辞は春を待ち焦がれる思いが伝わります。三月は低温が続き、桜の開花も待たれました。新生園の桜も見事に咲いたことでしょうか。

◇ 入 選 ◇

《天位》 斎藤 照雄

紐とけばふるさとの母の愛

【選 評】

幾つになっても忘れられない母の愛。上五の「紐とく」は過去の日々を振り返る様子でしょうか。お手紙でも荷物でも母からの送りものは、心に残るものだったことでしょう。

《人位》 大平 尚拓

棚を見て季節感じる買い物よ

【選 評】

スーパーマーケットの店内を見渡して、季節の移りを感じた一句。寒さ厳しい日々から、彩りを増した棚に春を思う。何気ない日常のシーンだが、暮らしの詩が川柳です。

◇ 佳 作 ◇

歌 多 眠 寝 子

虹の橋愛犬渡る聖夜にて
ぬいぐるみ似ても似つかぬ推しができ

大 平 尚 拓

新芽のび白帽かぶる春の前
休みにて布団かぶると夕方に

長 沼 蓮 花

晴れ風に今夜も進むもう一杯

圧巻の三重塔がお目見えし

夜桜のお花見客もサクラ色

斎 藤 照 雄

あの花が俺の手となり足となり
お人好し疑いどっさり背負わされ
太鼓腹叩かれ寮の人気者



出張 栄 養 班 だ よ り

4 月に特別な食事と季節のカードをお出ししました。

4 月 1 日 三重塔完成記念

4 月 9 日 観桜会

令和 6 年 4 月 9 日 ~ 11 日
観桜会行事

各センターを回り抽選会としんせい茶房を開催しました。
ちょうど桜が満開の時期に開催でき、楽しくお過ごしいただけました。

転入のご挨拶

総看護師長 石井智子

この度、国立病院機構花巻病院から赴任して参りました石井智子と申します。

国立療養所東北新生園の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

私の出身地は、青森県十和田市で、自宅は十和田市にあります。よく「十和田湖があるところでしょ」と思ってたさる方も多く、私も「そうそう」なんて言ったりしますが、実は十和田湖へは車で一時間かかる地域でございます。それなのに「十和田」と名乗ることで、十和田湖の恩恵にあずかろうとする、なかなか素敵な街でございます。

となりました。

私自身は、この町で高校卒業まで過ごし、その後、国立弘前病院附属看護学校（当時）で、看護を学びました。就職は、神奈川県立藤沢市民病院、介護老人保健施設、国立弘前病院（現・国立病院機構弘前総合医療センター）、国立病院機構函館病院、国立病院機構仙台西多賀病院、国立病院機構あきた病院、国立病院機構花巻病院へと、職歴を歩んで参りました。引越歴としては今回で八回目となりましたが、不思議なことに冷蔵庫や洗濯機などの電化製品は、最初に買ったときのまま、どれもこれも未だに現役バリバリ、全く壊れないという超常現象が起きております。私の社会人一年生の時から共に歩んできた愛着のある物達と、ここまで過ごせるとは思っていませんでした。これも縁なので大事にしようと思います。

十和田市の官庁街通りは松の防風林と桜並木のコントラストが美しく「日本の道百選」に選ばれた桜の名所です。桜の季節は、ソメイヨシノなどの桜と松が一キロメートル以上にわたってピンクと緑の色鮮やかなコントラストを楽しむことができます。また名馬の輩出で有名だったことから馬の彫刻や馬蹄のモニュメントなどもあちこちにあり、散歩コースにうってつけです。

十和田市の元祖である三本木原大地（さんぼんぎはらだいち）は、三本の木しか生えていないから三本木と言われ、風が強く穀物が育たない荒れ野原でした。それを、一八五八年（安政五年）新渡戸稲造の祖父である新渡戸傳（にとべつとう）とその息子が開拓し、稲生川（いなおいがわ）を造ったことで農業が行われるようになり、やがて碁盤の目に区画された現在の美しい町並みである十和田市

さて、この度、総看護師長として国立療養所東北新生園に赴任して参りましたが、私には大役で、自分の経験値や知識を総動員しても、入所者の皆様や職員の皆様のお役に立つまでにはほど遠く、日々暗中模索の中にあります。そのような中、久保自治会長様や入所者の皆様、職員の皆様から温かなお声をかけていただき、本当にありがたく、うれしく思っております。

先日桜が満開のなか、広大な敷地内を見学させていただきました。様々な建物や慰霊碑などを見て、一つひとつの歴史や意味をきちんと理解して受け止めたいと強く思いました。入所者の皆様の生活の質の向上を目指し、質の高い看護を提供できるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、よろしくお願いします

会計班長 狩野智行

はじめまして、いいえ、ただいまと言うべきでしょうか。この度、令和六年四月一日付で転入して参りました狩野智行です。ここ東北新生園では、昭和六十二年三月十六日に十八歳で採用辞令をいただき、翌十七日に初任給五万円を頂いたことは忘れられません。そこから庶務課施設管理係、福祉室福祉係、医事係、庶務係、補給係を経て転勤の旅が始まりました。国立療養所福島病院へ転勤、国立郡山病院との病院統合を経て国立福島病院そして国立病院機構へ組織替え、国立病院機構福島病院、その後国立病院機構弘前病院、国立病院機構盛岡病院そして津軽海峡を渡り

国立病院機構八雲病院、内地に戻り国立療養所松丘保養園、二十五年経て東北新生園に帰って来ました。

採用時（昭和六十二年当時）入所者数は確か三七五名だったと記憶しております。入所者の皆様も活気があり、ソフトボール、ゲートボール、カラオケ大会、運動会等と一緒にふれあい参加させていただきました。また、故・小山昇さん率いるゲートボール同好会が駿河療養所に行ったときは、嵐の雨の中で到着、古い事務本館が怖かった記憶、翌日の台風一過で青天の中で見た富士山が忘れられません。また福祉室の時代は里帰り旅行や各団体の旅行に同行させていただき、各地方の名物やグルメを教えてくださいました。里帰り旅行や日帰り旅行では、皆様と一緒にご飯を食べ、酒を酌み交わし、お風呂も共にして楽しかった思い出ばかりです。

また、当時施設管理係に採用された時は木

造のこげ茶の不自由者棟（泉寮→戸伊摩寮）が明るい白系の建物に更新された頃でした。不自由者棟は全室満室でした。当時、先駆けだったウォシュレットを不自由に合わせ改造設備していたことが思い出されます。それから三十有余年で第一メープル・第二メープルが出来ていたこと。一般寮がほとんどなくなっていたことが衝撃でした。当時、工事の説明等で楓会事務所を訪れ、会計・庶務・渉外・福祉・文化・事業・生活の担当係の方々に説明を行ったりで「報・連・相」の基礎をたたき込まれ、根回しの重要さを現在痛感しているところです。

過去、三笠宮寛仁親王殿下、信子様のお来園、らい予防法廃止に伴う厚生省副大臣のお来園、納骨堂への参拝等写真係で同行させていただきました記憶もかなり強く残っています。また、三笠宮寛仁親王妃殿下信子様がおアルゼンチン大使夫人とお来園。新生会館でピアノコンサー

トを開かれ、そこでも写真係で同行しましたが、コンサート中は撮影禁止でした。しかし大きな一眼レフで撮影（盗み撮り）を行い、大きなシャッター音で付き添いのSP係全員に睨まれたことはまだ忘れられません。フィルムも没収されませんでした。（笑）

当時、入所者の皆様は畑で農作業を楽しんでおり、秋の文化祭では巨大な白菜や甘藍（キャベツ）大根等を展示していました。福祉担当直巡回時には畑作業の皆さんに声を掛けていただいたり、会話を楽しんでいたことが思い出されます。

赴任からまだ数ヶ月ですが、やはり採用から十三年勤務したこともありますので、楽しい記憶が次々に思い出されます。原稿用紙が足りなくなりましたのでこちら辺で・・・。

二十五年振りに東北新生園の地に足を下ろし、仕事が出来るとは感慨深いですが、今回会計班長という役職もいただきました。

間電車や車に乗っていると疲れが溜まってしまふこともあります。新生園は自然が多い立地で空気も澄んでいるので、そういった疲れも和らぎます。この文章を書いている時期には桜がたくさん咲いていて、春を感じる事ができました。敷地も建物も広く、まだ全ての場所を見ることはできていませんが、時間を見つけて全ての場所を見て回りたいと思っています。

趣味はエレクトーンを弾くことです。エレクトーンというのは、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤を使って演奏する電子オルガンです。様々な楽器の音や効果音を出せるので表現の幅が広いのが魅力です。小さい頃は発表会などに参加していましたが、現在は忙しくなかなか弾く時間がないため、休日に気分転換がてら練習をしています。

また、就職を機に新しい趣味として読書を始めました。なぜ読書なのかというと、通勤

の隙間時間に楽しめるうえに電子書籍としてスマートフォンで本を読めるため、持ち運びも楽だからです。今は江戸川乱歩の少年探偵団シリーズを読んでいます。探偵の明智小五郎とその弟子である小林少年率いる少年探偵団が怪人二十面相という怪盗と対決する様子を描くシリーズです。対象年齢は小学五・六年生ですが、私は小学一年生の時に図書室で借りて読むのを断念した記憶があります。なので当時のリベンジも兼ねてこのシリーズを読破することを目標にしています。大人でも楽しめる作品だと思うので、ぜひ読んでみてください。

働き始めたばかりで慣れないことや分からないことばかりですが、早く仕事を覚えて新生園のことをもっと詳しく知っていきたいと思いますので、これからどうぞよろしくお願い致します。

なんだってできる、 なんとかなる

芽 生

想いの大きさと違いは、植物に寄せる期待に似ている。よく例えられるのは恋と愛の違いだろうか？

恋は落ちるもの。愛は育むもの。

恋は求めるもの。愛は与えたいもの。

花に水を与えても、望むのは綺麗に咲いて欲しいと願うだけ。毎日の手間暇を面倒と思う人間に花を育てることなど無理に等しい。水を与え、肥料を与え、雑草を刈り、それを楽ししいと思える人だけが受け取ることができるとギフト。それは見返りを期待しない愛にも

等しい行為の結果。

大切に過ぎて与えた水や肥料が多すぎたり、足りなかったり、良く知らないで世話を引き受けたら枯らしてしまったりと、時には失敗もある。人を想う気持ちも、相手を大切に思うほどに過保護になったり、構い過ぎて嫌がられたり、余計なお世話と受け止められることもあるだろう。かと思えば距離を測りかねて気のないように感じ取られてしまったりと、まったくもって恋と植物の扱いは難しい。

植物の特性とは人間に例えるならば、個性だろうか。相手をよく知るためには、相手をよく見て、何を望んでいるのか、どうしたら喜んでもらえるのかを考えながら行動に移していく必要があるのだ。時には花に水だけでは駄目なように、お日様の光や暖かさが必要だったり、風に当たった方が良くように、誰かの後押しや協力も必要だろう。

離任式

令和6年3月29日



本館会議室にて行われました。
今回の転勤・退職者は4名です。
お疲れ様でした。

自分の良さは己の口から発すれば自信過剰
や傲慢にも感じ取られるが、周囲の人に自分
の良さをアピールしてもらえば、あるいは心
動いて『あら、良い人そうだな。お付き合い
してみようかしら』となるかもしれない。別
段このお付き合いは男女の仲だけでなく、た
だの知り合いでも近所付き合いでも同じこ
と。いかに相手の心を掴み、懐に入り込む
か、適切な距離感を図れるかに、その後の付
き合い方の全てがかかっているのだ。相手に
けては元も子もない。あくまでも明るくこ
やかに接しながら日常の中で相手を知ってい
くのである。間違ったら誠意を持って謝罪し
よう。

どうにかなる。
どうにもならないことなんて、
この世にはそうそう起こらない。



斑入り ツルニチニチソウ

なんとかなる。
何度だって、いつからだって
人はやり直せるのだから。

四コマまんが

作・太田 凜

